

つばさ 2017 年夏臨時總會記念公開講座

～血液疾患のより良い治療とより良い治癒～

第2回つばさ血液懇談会 『血液疾患の長期闘病と日本の医療、輸血』

近年は分子標的薬や抗体薬などが次々に開発されて、多くの血液がんや小児血液腫瘍の治療成績が上がり、闘病しながらも長く、そして活動的に暮らせるようになりました。しかし一方では、MDSのように造血細胞移植が可能ではない場合はこれという治療法が示されない、という疾患があるのも血液疾患の特徴です。また MDS は貧血状態になることも多く、その場合は輸血治療を受けることになります。

つまりそれぞれの患者さんによって治療法や医療機関との付き合い方が非常に多岐にわたるようになった、それが近年の血液疾患治療の特性ということかもしれません。

そこで、それぞれの疾患を様々な治療法で時間をかけて乗り越え、今も医療との付き合いを継続している皆さんに、「私にとっての医療」を語ってもらい、より良い治療と QOL、日本の医療や輸血について特長や課題を共有します。また、大基幹病院が先進医療を行う一方で日本の医療を広く支えている地域の総合病院が果たしている役割、血液疾患の患者さんが在宅で医療を受けたい希望に応える訪問医療の実際、医療全体に欠かせない治療法「輸血」の仕組み、等について一緒に学び考えます。

場所 NOF 新宿南口ビル R3C 会議室 JR 新宿駅南口からおよそ 5 分 ※地図末尾

日時 2017 年 8 月 26 日 (土) 14 時 30 分～16 時 30 分 ※つばさ臨時總會 13 時～14 時 00 分 (傍聴可)

参加費 正会員 無料 非会員 お 1 人 3,000 円 (受付で正会員にご入会いただけます)

懇談会発言

医師として

秋山 秀樹先生 新渡戸記念中野総合病院 血液内科

大橋 晃太先生 トータス往診クリニック 院長

田野崎 隆二先生 慶応義塾大学病院 輸血・細胞療法センター/厚労省血液事業部会運営委員会委員長

分田 貴子先生 東京大学医学部附属病院乳腺内分泌外科

経験者として

跡部 浩一さん 急性骨髄性白血病を多剤併用療法で克服して 12 年

後藤 千英さん AYA 世代 MDS でした。一時期は頻回に輸血、そして 5 年前に造血細胞移植で治療。

中野 力さん 30 年前から MPN と様々に格闘してきて、4 年前についに疾患遺伝子が消えました。

新田 一郎さん CML 診断後も仕事は継続しつつ、分子標的薬で治療。この間、留学もしました。

宮城 順さん 小児 CML を 9 歳時に兄弟からの移植治療、34 歳で性腺ホルモンの補充療法を開始

矢萩 淳さん 多発性骨髄腫を自家移植と薬剤で治療。8 年目を経過中

そして、ご参加者の皆さんと語り合い・学び合います。

※この講座は Newsletter ひろば冬季号に掲載されます。

※13 時～14 時 00 分 臨時總會 正会員には詳細な案内が郵送されます。

議題 ○28 年度事業報告、29 年度事業計画の検討

○役員改選と承認

○つばさ支援基金について

The map shows the location of the mont-bell building at the intersection of Meiji Street (甲州街道) and the area around JR Shinjuku Station South Exit (南口). Key landmarks include FamilyMart, Starbucks Coffee, and various parking areas. The building is marked with a red starburst icon. The map also shows the location of the Tokyo Metropolitan Subway大江戸線 (Toei大江戸線) A1 Exit and the Daimaigo Post Office (代々木二郵便局).

**NOF 新宿南口ビル 4F
R3C 貸会議室**

1階に「mont-bell」が入ったビルの4Fになります

ビルの玄関は「mont-bell」の左隣にございます。道沿いからは見えにくいのでご注意ください。